

目次

1 章 木造軸組構法住宅の構造計画	2
1 壁量の確保（壁量計算）	6
(1) 必要壁量の算出	8
(2) 必要壁量の決定	14
(3) 存在壁量の算出	15
(4) 判定	28
2 壁配置のバランス（四分割法）	29
(1) 側端部分の必要壁量を算出	31
(2) 側端部分の存在壁量を算出	32
(3) 側端部分の壁量充足率と壁率比を算出	32
(4) バランスの判定	33
3 柱の柱頭・柱脚の接合方法	35
(1) 告示の仕様による選択	37
(2) N 値計算法（全ての階高で利用可）	41
(1) 柱の小径と細長比	50
4 柱の小径等	50
(2) 小径の確認が不要な柱（細長比の確認は必要）	53
(3) 柱の欠取り	55
(4) 隅柱等	55
5 基礎の仕様	57
(1) 布基礎	58
(2) ベタ基礎	60
(3) 基礎ぐい	62
6 屋根ふき材等の緊結	63
7 土台と基礎の緊結	64
8 横架材の欠込み	65
(1) 筋かいの最小断面	67
9 筋かいの仕様	67
(2) 筋かい端部	68
(3) 筋かいの欠込み	69
10 水平構面・小屋組の剛性の確保	70
(1) 水平構面への火打ち材等の設置	70
(2) 小屋組の振れ止め	71
11 部材の品質と耐久性の確認	73
<hr/>	
2 章 演習	76
事例概要	77
1 壁量計算	80
(1) 必要壁量の算出	81

(2) 必要壁量の決定	94
(3) 存在壁量の算出	95
(4) 判定	101
2 四分割法	102
(1) 側端部分の必要壁量を算出	103
(2) 側端部分の存在壁量を算出	103
(3) 側端部分の壁量充足率と壁率比を算出	104
(4) バランスの判定	104
3 N 値計算法	111
(1) 壁倍率の差 A を算出	114
(2) 筋かいの補正值の決定	114
(3) 係数 B,L を決定	116
(4) N 値を算出	117
(5) 柱頭・柱脚部の接合金物等を選択	117
4 柱の小径等	127
演習回答	129

3 章 耐震性能向上のための留意点・対策方法&表計算ツール利用のコツ	132
1 多雪区域の必要壁量の算出	133
2 壁量計算における床面積の考え方	135
3 耐力壁の高さと幅	136
4 出隅の柱に高倍率耐力壁が取り付く場合の N 値の割り増し	138
5 耐力壁の壁端柱の直下に下階柱がない場合の N 値計算法	139
6 長尺筋かいを用いる場合の留意点	146
7 圧縮筋かいと引張筋かいの配置	147
8 軒の出が 600mm 超もしくは屋根勾配 5 寸超となる場合の対応	148
9 屋根断熱とする場合の対応	150
10 外壁仕様が選択部分にない場合の対応	151
11 柱の小径のチェックにおいて選択肢がない材料を使用する場合の対応	153
12 柱の小径のチェックにおける前提条件（横架材寸法等）	155

4 章 耐風性向上のための留意点及び対策方法	158
1 地域や建設地に応じた風圧力の考え方	159
2 基準風速や強風の実況に配慮した木造小屋組の接合方法の選択	164
3 各接合方法の施工上の留意点	168

5 章 建築士事務所の保存図書の制度の見直しの内容	174
---------------------------	-----

参考資料 1: Z マーク表示金物の種類

参考資料 2: Z マーク表示金物の耐力性能一覧表

参考資料 3: 建築基準法施行令及び関係告示